

# ひろば

556.325  
大代公民館

## おひがんさん

遷恵 (松島定範)

1 暑く寒くも彼岸まで  
寒冷に暮らしている私共にとどき力を合せてがんばりま  
つて、彼岸は待ち遠しいもた  
のです。

春分の日は大陽が真東から  
真西に没するといひます。  
落日の美しさは人の心をと  
うと、西に没する方向に和  
共の心ふる里、先祖のふ  
る里、敬慕してやまない  
土の彼岸、これに対して  
業苦をわが身の上に展開  
している此岸、この生の  
病死の恐怖にふりまわさ  
す、すむ心、やすらかな心  
を養い育てるのが、彼岸  
間の意でしょう。



## 学校生活の想い出

小学校

本郷 野田久美

小学校に入學してから六  
年という月日が過ぎ去つて  
まいりました。いろいろな  
ことにも、クラスのみんな  
と力を合せてがんばりまし

春の遠足からはじまつた  
親子運動会、校内トレー  
セン、四年から出してもら  
うた連合運動会をして、五  
年とだしてとらうた体操  
共の心ふる里、先祖のふ  
る里、敬慕してやまない  
土の彼岸、これに対して  
業苦をわが身の上に展開  
している此岸、この生の  
病死の恐怖にふりまわさ  
す、すむ心、やすらかな心  
を養い育てるのが、彼岸  
間の意でしょう。

2  
中学校  
植松 小笠原恵功

小学校の思い出は、  
一年の時のプレハブ校舎  
での学習、二年になつて  
分たたくお準き頂いた町  
民校での新しい生活、中  
でもの皆さんに厚くお礼  
申し上げます。

マせんでした。自分では  
比の人の総てか、(どん  
比)の様に思え、名前が  
呼ばれた時は、冬に体が  
くなつて、壇上までどう  
つて上つたのが今でも思  
あせません。

55年秋の文化祭。男子全  
員で作ったお化屋敷。双  
が一日中かか、て少しで  
人に喜ばれるものにしよ  
とした努力、ニと忘れる  
ことにはないでしょう。

3  
中学校  
本郷 山根むつみ

卒業 目日の流れの早  
に気づいた今、振りかえ  
思い出すことは何とかが  
楽しく感じられます。  
一年の時のプレハブ校  
での学習、二年になつて  
分たたくお準き頂いた町  
民校での新しい生活、中  
でもの皆さんに厚くお礼  
申し上げます。

と力強く歩んで行きます。  
《果立つてすへ》  
一 小学校 四日市 竹中 讓

高山を呼ぶ、希望のつば  
さ羽ばたかせ通はうれ  
い大代校、学ぶよ我ら  
の下の六年間、先生方の  
たたかり教を頂き、今  
業を目の前にしている  
に、よくかんばつたと賞  
めたい。

身体の不自由を一言も  
にせず、又お母さんと呼  
ぶことも知らない我が子  
に合  
たたくお準き頂いた町  
民校での新しい生活、中  
でもの皆さんに厚くお礼  
申し上げます。

この卒業、喜びを感  
じながらの息子がどん  
と

道へ歩むかほ、わがりませ  
んかいつまでも温く見守  
りてやりたかと思つていま  
す。今後共ご指導よろしく  
お願いいたします。

二 中学校

飯谷 塚本武人  
三月になる声と共に忙し  
さが降つて来た杯に思われ  
る。年々木のしめくくり  
として新年の計画草色々  
農家にとつても暖い天候の  
日は外の仕事が続つていろ  
ろ感します。

卒業生をまつ親にとつて  
進学が心配されますが、三  
年後はゆきたい良い務め口  
があれはと願う今日です。  
大代の人口の減少ととな  
り、螢の光の歌と共に林し  
たを感ずる三月ですが、希  
望に満ち溢れた卒業生の前  
進に期待をかけ励ましの言  
葉を送りたい。

三 中学校

山田 渡 童子  
美務教育九か年が終つた

一つの節々人生はこれから  
ほとんどの子供達が親元  
を離れ別世界に入つていか  
なければならぬ。それだ  
けに今後ほ厳しいものとな  
るであらう。しかしいつど  
もなことにぶつかつてそ  
人の道をそれないで生きて  
いてほしい。  
自分のやることに責任を  
もつて善悪の判断をし、か  
り身につけて、どんな苦し  
いことかおこらうとも、自  
分というものを大切にしてい  
こう。

奨励会に参加して

梅 山口富枝校

毎年行われていた中  
学卒の奨励会が、今年も  
自らは日公民館主催で行  
われ、私達婦人会はこの日  
の会事を担当させて頂き、  
伝統あるこの行事に参加  
出来ることを嬉しく思  
います。卒業生の中に卒業生

名入場、記念品贈呈、卒業  
生の一口自己紹介と進路等  
を発表、出席者の方の奨励  
の言葉、同好会の賛太鼓、  
最後に卒業生の暖まきかせ  
てもらいました。  
校長先生や卒業生のお礼  
の言葉に感銘し、卒業生の  
前途を祝し幸多かれと祈り  
つつ拍手を送りました。

俳句 (俳句会)

飯谷 武田鳥子

遠吠えや

雪のしじまに町眠る

春炬燵

主七き、座に猫の居る

福 柿丸素枝

新しき、塔澤に光る冬の月

いつのまに、亡母に似るわれ

着ふくれて



お知らせ

ブルの件

待望のブルは56年春ホ  
ーリングをして、今年には  
完成の見込みです。今後  
のご協力をお願いいたします。  
山根小み林(故山根黄林  
の奥孫)から、公民館  
委員会、婦人会へ金一封の  
ご寄贈を頂きました。  
有難うございました。  
若道之子、五風会、島根  
県最初の展に次の方が入  
賞されました。  
銀賞 橋本淳子、法 運子  
市原道子、坂本武人、濱利高枝  
銅賞 山口富枝、森原淳子  
あと、香杯のご協力によ  
り毎月発行の選び  
が、が順調で他町から  
注目されております。今後  
とまよふお願ひします。  
今月は桜亭と小中学校の  
卒業生についての記事をど  
りあげました。  
(編集部)